



平成28年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成28年2月8日

上場会社名 小池酸素工業株式会社 上場取引所 東
 コード番号 6137 URL http://www.koikeox.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 横田 修
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長 (氏名) 富岡 恭三 TEL 03-3624-3111
 四半期報告書提出予定日 平成28年2月12日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第3四半期の連結業績（平成27年4月1日～平成27年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第3四半期	33,677	3.4	1,534	67.1	1,282	21.4	599	30.2
27年3月期第3四半期	32,559	15.2	918	165.3	1,057	106.8	460	ー

(注) 包括利益 28年3月期第3四半期 335百万円 (△72.7%) 27年3月期第3四半期 1,229百万円 (55.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第3四半期	14.49	ー
27年3月期第3四半期	11.12	ー

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
28年3月期第3四半期	54,298	29,230	50.2	658.55
27年3月期	56,264	29,219	48.6	660.05

(参考) 自己資本 28年3月期第3四半期 27,259百万円 27年3月期 27,323百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	ー	ー	ー	7.00	7.00
28年3月期	ー	ー	ー		
28年3月期(予想)				7.00	7.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

27年3月期期末配当金の内訳 普通配当 6円00銭 特別配当 1円00銭

3. 平成28年3月期の連結業績予想（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	47,400	3.2	2,000	31.1	2,100	29.4	1,100	20.7	26.57

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(注)詳細は、添付資料4ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

28年3月期3Q	45,229,332株	27年3月期	45,229,332株
28年3月期3Q	3,836,253株	27年3月期	3,833,686株
28年3月期3Q	41,393,951株	27年3月期3Q	41,401,811株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	10
4. 補足情報	11
生産、受注及び販売の状況	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、米国経済や欧州経済が堅調に推移したことなどにより緩やかな回復が見られたものの、中国経済の減速や原油安などから先行きは不透明な状況で推移しました。

一方、わが国経済は、個人消費の持ち直しに依然として足踏みが見られるものの、政府の経済政策などを背景とした企業収益や雇用情勢の改善により、景気は緩やかな回復が続きました。

当社グループの主需要先である産業機械業界では受注の減少、建設・建築業界では住宅着工戸数に一服感がありましたが、造船業界では手持ち工事量に増加が見られました。

このような状況のもと、当社グループは世界市場に向けた新技術・新製品の開発、また、収益確保を目指した原価低減、経営の効率化に取り組んでまいりました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は336億77百万円（前年同期比3.4%増）、営業利益は15億34百万円（同67.1%増）、経常利益は12億82百万円（同21.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は5億99百万円（同30.2%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

機械装置

機械装置部門においては、4月にKOIKEテクノセンターにて開催した2015年KOIKEプライベートフェアに、定尺サイズの厚板高速加工が可能なファイバーレーザー切断機「FIBERTEC-Zシリーズ」や新型プラズマ切断装置「SUPER-400PRO-II」、高速穴開け加工が可能な新型ドリル「センターミスト式ドリルユニット」を搭載したNC切断機などの新製品を展示し、好評を得ることができました。また、全国で器具標準品（手動ガス切断機・溶断用圧力調整器等）の拡販セール「20%アップキャンペーン」を行うとともに、新型溶接台車「ウェルハンディミニストロング」や「ウェルバート」の実演販売活動を開始し、受注が増加しました。さらに、新規にロスナイスシステムの納入が完了するなど顧客のシステム化への対応も進めました。

海外においては、中国で開催された北京エッセンショーに、ナビゲーションシステム搭載のCNC切断機を出展するとともに、造船業界向けのセミナーを開催し、多くの来訪者を集めることができました。また、アジアの当社代理店の営業員への販売トレーニングを実施するとともに、タイやインドネシアの展示会に小型CNC切断機などを出展し、積極的な営業活動を行いました。さらに、国際協力機構（JICA）からの要請によるブラジルの職業訓練校講師への鋼材切断技術に関する研修をKOIKEテクノセンターにて実施し、国家プロジェクトへの貢献ができました。

生産面においては、収益向上のため、生産原価の予実管理を強化し目標原価の遵守を徹底しました。また、CO2レーザー切断機およびファイバーレーザー切断機的好調な納入を背景にNC切断機は高い生産量を維持するとともに、新開発の溶接台車を生産開始しました。

その結果、売上高は153億93百万円（前年同期比8.0%増）、セグメント利益は12億36百万円（同66.4%増）となりました。

高圧ガス

高圧ガス部門においては、2015年KOIKEプライベートフェアを機に、切断・溶接装置販売に伴う多くの新規ガス獲得に繋げることができましたが、工業用ガスは、鉄鋼関連を中心に酸素・窒素・アセチレン・ヘリウムの需要の落ち込みを受け、販売量は低調に推移しました。なお、新分野への取り組みとして、「2015国際次世代農業EXPO」において農作物への成長促進に効果がある「グリーンガス」を出展し、好評を得ることができました。

生産面においては、保安確保・安定供給を第一に取り組むとともに、CE大型化による輸送効率向上や新電力会社への移行などにより原価低減に努めました。

医療分野においては、HOSPEX Japan 2015（医療福祉設備展）に、手術用映像システムと「クロモフェアF」（LED無影灯）を合わせて出展し、好評を得ることができました。酸素濃縮器においては、新製品「KM5 5 touch」（酸素濃縮器/タッチパネル・静音・軽量）のレンタル件数および販売の増加により、売上を伸ばすことができました。また、「ジャスミン」（睡眠時無呼吸症候群治療装置）は、製品改良により評価が高まり、順調に契約を伸ばしました。

その結果、売上高は114億86百万円（前年同期比2.4%減）、セグメント利益は6億98百万円（同7.4%増）となりました。

溶接機材

溶接機材部門においては、当社の主需要先である建築・鉄骨向けの各種工事に一服感があつたものの、溶接機・溶接材料の需要が堅調に推移したため、昨年を上回る販売量となりました。

溶接機器においては、2015年KOIKEプライベートフェアにて、今後の需要増加が見込まれる水素ガスに主眼を置き、水素ガスに対応するホースを初めて出展し、販売を開始するとともに、水素ガス用逆火防止器の受注活動にも努めました。また、安全器・ホース・マグネットの拡販を目的とした「サマーセール」の実施や「こいけ市」をはじめとした各種展示会での溶接機・関連商材の実演PR、溶接機材の物流網を活用した拡販を行い、成果を得ることができました。さらに、大手ユーザーから大型溶接ロボットの新規受注を獲得するとともに、個人向け一般市場への小型の溶接機・プラズマ切断機の販売増加を図るため、JAPAN DIY HOMECENTER SHOW 2015への出展や首都圏のホームセンターでの実演を行い、多くの来場者を集めることができました。

その結果、売上高は64億32百万円（前年同期比3.0%増）、セグメント利益は1億83百万円（同19.8%増）となりました。

その他

その他の部門においては、ガス機器の品質向上・原価低減への取組、積極的な営業活動を行い、大学研究機関へ今年度末にヘリウム液化機2台の納入が予定されております。

排ガス処理装置については、中国経済の減速に伴う設備投資計画延期などにより、十分な成果を得ることはできませんでしたが、SEMI規格を取得するとともに、新製品2機種を台湾の顧客に販売し、好評を得ることができました。

その結果、売上高は3億65百万円（前年同期比26.0%増）、セグメント利益は8百万円（前年同期はセグメント損失23百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明**(資産)**

当第3四半期連結会計期間末の総資産は542億98百万円で、前連結会計年度末比19億65百万円の減少となりました。

流動資産合計は308億75百万円で、前連結会計年度末比13億27百万円の減少となりました。これは主に仕掛品が4億48百万円増加の一方、現金及び預金が11億2百万円減少、受取手形及び売掛金が5億55百万円減少したことによるものです。

固定資産合計は234億22百万円で、前連結会計年度末比6億38百万円の減少となりました。これは主に投資有価証券が5億45百万円減少したことによるものです。

(負債)

流動負債合計は189億47百万円で、前連結会計年度末比10億60百万円の減少となりました。これは主に前受金が6億7百万円減少、未払消費税等が1億61百万円減少したことによるものです。

固定負債合計は61億20百万円で、前連結会計年度末比9億16百万円の減少となりました。これは主に長期借入金が6億39百万円減少、繰延税金負債が2億20百万円減少したことによるものです。

(純資産)

純資産合計は292億30百万円で、前連結会計年度末比11百万円の増加となりました。これは主にその他有価証券評価差額金が3億85百万円減少の一方、利益剰余金が4億46百万円増加したことによるものです。

この結果、自己資本比率は50.2%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年5月13日に公表いたしました連結業績予想から変更はありません。詳細につきましては、「平成27年3月期決算短信」3ページ 1. 経営成績 (1) 経営成績に関する分析 ②次期(平成28年3月期)の見通しを参照ください。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。）、「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。）及び「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更しております。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

なお、当第3四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,881	7,778
受取手形及び売掛金	14,024	13,469
商品及び製品	4,955	4,952
仕掛品	1,278	1,726
原材料及び貯蔵品	2,152	2,048
その他	1,165	1,200
貸倒引当金	△256	△301
流動資産合計	32,203	30,875
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,395	4,170
機械装置及び運搬具(純額)	1,711	1,514
工具、器具及び備品(純額)	496	435
土地	9,883	10,181
リース資産(純額)	954	1,044
建設仮勘定	89	51
有形固定資産合計	17,531	17,398
無形固定資産		
のれん	38	27
リース資産	4	11
その他	203	223
無形固定資産合計	246	263
投資その他の資産	6,283	5,760
固定資産合計	24,061	23,422
資産合計	56,264	54,298

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	11,008	7,189
電子記録債務	—	3,840
短期借入金	3,547	3,441
1年内返済予定の長期借入金	1,065	1,025
1年内償還予定の社債	40	40
未払法人税等	441	349
賞与引当金	536	392
役員賞与引当金	65	45
受注損失引当金	15	13
製品保証引当金	66	60
関係会社整理損失引当金	—	11
その他	3,222	2,537
流動負債合計	20,007	18,947
固定負債		
社債	20	—
長期借入金	1,859	1,220
役員退職慰労引当金	220	220
退職給付に係る負債	143	134
資産除去債務	14	14
その他	4,778	4,530
固定負債合計	7,037	6,120
負債合計	27,045	25,068
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,028	4,028
資本剰余金	2,357	2,357
利益剰余金	17,545	17,991
自己株式	△916	△917
株主資本合計	23,014	23,459
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,692	1,307
繰延ヘッジ損益	△1	—
土地再評価差額金	1,355	1,218
為替換算調整勘定	924	965
退職給付に係る調整累計額	338	308
その他の包括利益累計額合計	4,309	3,799
非支配株主持分	1,895	1,970
純資産合計	29,219	29,230
負債純資産合計	56,264	54,298

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
売上高	32,559	33,677
売上原価	23,892	24,487
売上総利益	8,667	9,190
販売費及び一般管理費	7,748	7,655
営業利益	918	1,534
営業外収益		
受取利息	20	18
受取配当金	61	69
受取賃貸料	62	88
持分法による投資利益	29	32
物品売却益	25	24
為替差益	40	—
貸倒引当金戻入額	56	17
その他	36	46
営業外収益合計	332	297
営業外費用		
支払利息	97	75
賃貸費用	53	25
為替差損	—	417
その他	43	30
営業外費用合計	193	549
経常利益	1,057	1,282
特別利益		
固定資産売却益	25	54
投資有価証券売却益	3	0
その他	—	0
特別利益合計	28	54
特別損失		
固定資産除売却損	21	31
減損損失	3	70
のれん償却額	11	—
関係会社整理損	—	79
関係会社整理損失引当金繰入額	—	11
その他	12	0
特別損失合計	50	193
税金等調整前四半期純利益	1,036	1,144
法人税、住民税及び事業税	305	651
法人税等調整額	164	△218
法人税等合計	470	432
四半期純利益	565	711
非支配株主に帰属する四半期純利益	104	112
親会社株主に帰属する四半期純利益	460	599

(四半期連結包括利益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
四半期純利益	565	711
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	527	△379
繰延ヘッジ損益	△1	1
為替換算調整勘定	154	31
退職給付に係る調整額	△16	△29
その他の包括利益合計	664	△376
四半期包括利益	1,229	335
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,102	226
非支配株主に係る四半期包括利益	127	108

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自平成26年4月1日至平成26年12月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	機械装置	高压ガス	溶接機材	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	14,256	11,770	6,243	32,269	290	32,559	—	32,559
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	14,256	11,770	6,243	32,269	290	32,559	—	32,559
セグメント利益 又は損失(△)	742	649	153	1,546	△23	1,522	△603	918

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、燃焼式排ガス処理装置、ヘリウム液化機の製造・仕入・販売業が含まれております。

2. セグメント利益の調整額△603百万円には、セグメント間取引消去96百万円、のれんの償却額△10百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△728百万円、棚卸資産の調整額34百万円、その他の調整額4百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間（自平成27年4月1日至平成27年12月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	機械装置	高压ガス	溶接機材	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	15,393	11,486	6,432	33,312	365	33,677	—	33,677
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	15,393	11,486	6,432	33,312	365	33,677	—	33,677
セグメント利益	1,236	698	183	2,118	8	2,126	△591	1,534

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、燃焼式排ガス処理装置、ヘリウム液化機の製造・仕入・販売業が含まれております。

2. セグメント利益の調整額△591百万円には、セグメント間取引消去123百万円、のれんの償却額2百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△761百万円、棚卸資産の調整額60百万円、その他の調整額△17百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

（重要な後発事象）

（固定資産の譲渡及び特別利益の発生）

当社は、平成27年12月21日開催の取締役会において、以下のとおり、当社保有の固定資産を譲渡することについて決議し、平成28年1月21日付けで契約を締結いたしました。

1. 譲渡の理由

当社が大阪府大阪市に所有しております事務所・倉庫・ガス充填工場について、移転計画に基づき、譲渡することといたしました。

2. 譲渡資産の内容

資産の内容及び所在地	譲渡価額	帳簿価額	譲渡益概算	現況
大阪府大阪市城東区中央 2丁目22番2、24番 土地面積 2,205.37㎡	1,205百万円	589百万円	616百万円	事務所 倉庫 ガス充填工場

3. 譲渡先の概要

譲渡先（上場会社）につきましては、契約上の都合により公表を控えさせていただきます。なお、譲渡先と当社との間には、記載すべき資本関係・人的関係・取引関係・関連当事者として特記すべき事項はありません。

4. 譲渡の日程

(1) 取締役会決議日	平成27年12月21日
(2) 契約締結日	平成28年1月21日
(3) 物件引渡日	平成29年3月末日（予定）

5. 今後の見通し

本物件の固定資産譲渡益につきましては、平成29年3月期の特別利益に計上する予定であります。

4. 補足情報

生産、受注及び販売の状況

(1) 生産実績

当第3四半期連結累計期間の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)	前年同四半期比 (%)
機械装置 (百万円)	13,991	117.8
高压ガス (百万円)	276	103.4
報告セグメント計 (百万円)	14,268	117.5
その他 (百万円)	—	—
合計 (百万円)	14,268	117.5

- (注) 1. 金額は販売価格によっております。
2. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注状況

当第3四半期連結累計期間における受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高 (百万円)	前年同四半期比 (%)	受注残高 (百万円)	前年同四半期比 (%)
機械装置	10,604	86.1	5,543	84.4

- (注) 1. 金額は販売価格によっております。
2. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。
3. 受注高及び受注残高につきましては、標準機・部品等の金額を含めておりません。

(3) 販売実績

当第3四半期連結累計期間の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)	前年同四半期比 (%)
機械装置 (百万円)	15,393	108.0
高压ガス (百万円)	11,486	97.6
溶接機材 (百万円)	6,432	103.0
報告セグメント計 (百万円)	33,312	103.2
その他 (百万円)	365	126.0
合計 (百万円)	33,677	103.4

- (注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。